

## 平成 19 年 4～6 月期の畜産配合飼料価格について

### 畜産配合飼料価格改定額

平成 19 年 4～6 月期の畜産配合飼料価格につきまして、以下の飼料原料情勢等に基づき、平成 19 年 1～3 月期に対して、全国全畜種総平均トン当たり約 3,300 円値上げすることを決定致しました。 尚、改定額は、地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

### 飼料原料・外国為替情勢について

#### 1. 原料(飼料穀物)

エタノール向け米国産とうもろこしの需要が増大するとの見通しから、中期的な需給逼迫が予想されております。その様な情勢の下、1 月 12 日発表米農務省需給計画に於いて、生産数量が予想外の約 2 億 10 百万ブッシェルの減少となり、一方 需要は引き続き旺盛であったことから、期末在庫数量は 9 億 35 百万ブッシェルから 7 億 52 百万ブッシェルへの減少となりました。これを材料に、シカゴ定期とうもろこし相場に買い注文が入り、同 3 月限の価格は ¢ 380/ブッシェル前後の水準から、一気に ¢ 400/ブッシェル超えとなり、その後の高値は ¢ 440/ブッシェルを付けています。

とうもろこし作付面積の増加といった弱材料はありますが、単収を決定する重要な一要因である天候推移に注目が集まる時期となりますので、相場は高く推移する見通しです。

#### 2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆粕相場 3 月限は、とうもろこし相場の高値展開及び、とうもろこしへの作付シフトにより大豆作付面積が減少するとの予想等から上昇し、\$ 215～230/ショートトンとその相場ポジションを切り上げた水準で推移しています。この為、大豆粕価格は大幅に上昇する見通しです。

#### 3. 海上運賃

世界的な石炭輸入の増加や中国の継続的な鉄鉱石等の輸入増加等を背景に、米国ガルフ/日本間の船運賃は \$ 60/トンを以上の高値を続けています。

新造船の投入による船舶需給緩和が期待されるようですが、需要が引き続き旺盛と見られており、船運賃相場は高値が続くと見込まれます。

#### 4. 外国為替

日米金利差を背景にした円売り、ドル・ユーロ買い展開になり、円ドル相場は 122 円台まで円安が進みましたが、世界的な株価下落によって各種商品相場等からの資金引き上げの動きが活発化したことで売られていた円が買い戻され、ドル円相場は 116～118 円レンジの展開になっています。